

13. セラルヴェス現代美術館



ポルトの住宅が立ち並ぶ環境の中 18 ヘクタールにも及ぶ広大な公園がある。その公園はセラルヴェス財団公園といいセラルヴェスハウスを中心にドウエロ川に沿って直径 500m にもなる。そんな広大な公園の入口にあるのがアルヴァロ・シザ・ヴィエイラ設計のセラルヴェス現代美術館だ。



シザの代表作にもなるこの作品はインパクトある白色の外壁となっており、公園の緑との一体感を感じる。

4500 m²ある展示エリアにはトップライトを用いた展示室や、ウィンドウピクチャーなどがあり、館内からも自然との一体感を感じることができた。窓一つとってもその窓に映る景観に細心の注意を払って設計されているのが良く分かる。そんな開放的な空間と閉鎖的な空間のバランスがとても心地良いものとなっていた。



また、この作品の一番の見せどころである自然光を活かしたアプローチは来る人々を美術館へ誘い込むようにみえた。白い壁が自然光を反射させこの特別な空間を演出している。

ポルト市街の中にあるこの 18ヘクタールともなる広大な土地はここに住まう人々にとって時間を忘れる理想的な場所になっているのだと思う。

成木 俊介